

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ, KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ, KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 871 septembro 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYÛGOKU kaj SIKOKU
Sinhamatyô 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063,
KOSAKA Kiyoyuki

ENHAVO

第72回関東エスペラント大会感想記.....	竹森 浩俊 1-2
楽しい作文教室 (145).....	塚本 猛 3
連載: 高齢者の... 4) 高齢者とエスペラント会話	
.....	佐野 寛 4
Pasporta Servoのお客 Petroさん.....	田平 正子 5
対訳: 源氏物語 第54帖 夢浮橋 (3).....	紫式部/belmonto 6-7
Kajero Libervola: Iom pri Niŝitecu-Oomuta	
linio.....	MUTOO Tacuko 8
vidis eksciis sentis: Kvin-etaĝa pagodo de Templo	
Koofukuĵi.....	TAKEMORI Hirotoŝi 9
楽譜: Leporo (うさぎ).....	文部省唱歌、島谷 剛 9
夢十夜 (9).....	夏目 漱石 / 沖 恵明 10-11
Kultura heredaĵo: 小倉百人一首 (紫式部).....	11
日本昔話 (22) 牛若丸.....	島谷 剛 12
La Movado: 宮崎エスペラント会ほか.....	13
Kurantaj Vortoj.....	13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績.....	14
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより.....	15
出版情報.....	15
編集ノート.....	16

第72回関東エスペラント大会感想記

竹森 浩俊 (奈良県)

2023年6月17日、18日、東京都江戸川区パワーホール船橋にて開催された第72回関東エスペラント大会にZoomで参加、感想記として報告する。大会テーマは「どうやって若い人にエスペラントを広めるか」、興味深いテーマである。私の参加は6月18日のみ。最初パスワードをいくら入力しても

エラーとなり、どうしてもZoomでの接続ができなかった。最終的にweb Zoomに接続することで繋げることができた。おそらく私のPCに原因があるのだろう。大会は既に堀泰雄さんの講演が始まっていた。開会式と山野さんの講演1は参加できなかった。以下、各番組の概要とその感想を報告す



る。なお正式な報告書は関東エスペラント連盟機関誌 Ponteto 319 号参照のこと。参加総数 102 人(現地参加者が 44 人、Zoom 参加が 26 人、不在参加 32 人)。

2. Kiel aperigi Esperanton en ĵurnaloj, de s-ro HORI Jasuo

「マスコミとの付き合い方」堀泰雄さん

精力的に書籍を出版されて、都度新聞に取り上げられてきた堀さんの今までの経過を報告。内容は La Movado N-ro 869 の堀さんの記事に通じる。エスペラントの能力を高めること、エスペラントを常に社会の向上のために使う意識を持つこと、そしてその成果を外部にアピールすれば、新聞は取り上げてくれる。超人的な堀さんの尽力といったところで唯々感心するばかりだが、エスペラントの活躍する場は結構多いのかもしれない。堀さんの一例で示せば、『東日本大震災 震災鎮魂句』は、俳人の照井翠さんの俳句を堀さんがエスペラントに訳し、堀さん自身が撮った被災地の写真と共に世界に配信した。俳句のイメージが写真とエスペラントと共に深まって読者の心を捉えて圧巻だった。朝日新聞岩手版で 2017 年に取り上げられた。社会の関心がある事象をエスペラント + α で発信することが、マスコミの関心を引くことになる。

3. Geknaboj en la nazi-koncentrejo de Terezin, de s-ino Hajaši Sačiko

「テレジンの子どもたち」林幸子さん

チェコのテレジン強制収容所に送られたユダヤ人の少女少女たちが短い人生をどのように送ったか、子供たちが自主発行していた機関誌 Vedem の残された資料を基に講演。不勉強でテレジン強制収容所は全く知らなかった。エスペラントで説明をいただき大変感激した。

4. Pri mia libro « Pooĉi kaj Noto », de Komacu Ajako

『ポーチとノートを出版して』こまつあやこさん

こまつあやこさんは、小学校の時にエスペラントの事を聞き、藤沢、川崎でエスペラントを学んで、自身の 4 冊目の本に、エスペラントがカギになっている『ポーチとノート』を書いた。その経緯や高校生の感想をリモートで講演。エスペラントについては良く理解されて丁寧に書かれていたとの印象

だ。こまつあやこさんの作品は、言葉と女子高校生がキーワードで、2018 年デビュー作はマレーシアからの帰国子女の話、最新作の「雨にシュクラン」ではアラビア書道が題材となっている。

5. Anarkiismo, Esperanto kaj mi, de Krobara Ariza

「アナキズム、エスペラント、私」黒薔薇アリザさん

La Revuo Orienta 編集部員であり月刊『アナキズム』編集部長の黒薔薇アリザさんが、アナキズムとエスペラントとご自身の人生を解説。面白い。ご自分の住民票の名前をアナキストのイメージに合うように変えてしまった！アナキズムに対して負のイメージを持っていた私はそれが間違いだったと認識。反戦や貧困・格差の解消、環境問題に通じる思想だった。

6. Resuma opiniinterŝanĝo pri la Kongresa Temo 「大会テーマに関するまとめの意見交換」

大学でエスペラントのサークルができ、コロナ禍でマイナーな言語に関心が高まり、若者の間にエスペラントへの関心が深まっている。戦争に反対して世界を良くしていこうという機運があり、チャンスだ。ソーシャルネットワークを利用してエスペラントを広める幾つかの提案があった。

その他の情報

6 月 17 日の夜、若い人の集まりがあった。Chat-

GPT にヒント 3 回で謎解きを試みるゲーム。ウミガメのスープを飲んで自殺した男がいた。その理由は？

<https://www.youtube.com/watch?v=hvWqNISBo9c&t=135s>

<https://www.youtube.com/watch?v=hvWqNISBo9c&t=135s>

<https://www.youtube.com/watch?v=hvWqNISBo9c&t=135s>

前から予定されていた南智恵莉さんの講演は、都合により中止になった。南さんの YouTube チャンネルで見られる。

<https://www.youtube.com/watch?v=FqLQovgr8wmM&t=41s>

<https://www.youtube.com/watch?v=FqLQovgr8wmM&t=41s>

<https://www.youtube.com/watch?v=FqLQovgr8wmM&t=41s>

<https://www.youtube.com/watch?v=FqLQovgr8wmM&t=41s>

<https://www.youtube.com/watch?v=FqLQovgr8wmM&t=41s>

注：本人使用の綴りによる





①反対派はデモをして開会させまいとした。

【訳例1】La opozicio manifestaciis por malhelpi la malfermon de la asembleo. (Ivajo)

【訳例2】La opozicio planis manifestacion por ke neniu kongreso okazu. (CA)

【訳例3】La opozicia grupo intencis malhelpi la malfermon de la vilaĝa parlamento per manifestacio. (yosie) 解説

「反対派」は opozicio (反対派) や kontraŭulo (反対者) が使えるでしょう。「デモ」は示威運動、この場合は反対の意思表示として集団で行進したりする manifestacio (示威行進、示威集会) が考えられます。manifesti ion (表明する) は意見などを明示するもので「デモ」の意味はありません。

訳例1は malhelpi ion (邪魔する) により「開会を妨害するためにデモをした」と表現しています。

訳例2は por ke -u を使い「どの会議も開かれないう」デモを計画したとの表現です。por ke による従属節の主動詞は -u を使うので注意が必要です。

訳例3は「デモによって村議会の開会を妨害しようと意図した」と表現しています。この訳例の「村議会」に parlamento (国レベルで法律や予算の審議をする集まり) は大きな表現だと思います。

②隣の町や村からも大勢が反対派の応援に来た。

【訳例1】Ankaŭ de najbaraj urbeto kaj vilaĝo multaj venis por subteni la opozicion. (綴り修正: Ivajo)

【訳例2】Multaj el najbaraj urboj kaj vilaĝoj venis por partopreni en la manifestacio. (yosie)

「町」は urbo や urbeto、「村」は vilaĝo で表現できるでしょう。日本の自治体では「市」や「町」が成立した後に人口が減少してもそのままなので、人口が1万人未満の「市」もあれば5万人超えの「町」や4万人超えの「村」もあります。urbo や urbeto の使い分けは相対的です。

訳例1は「応援する」に subteni ion (支援する) を使い、反対派を支援するために大勢が来た」と表現しています。訳例2は partopreni (参加する) を使い「デモに参加するために大勢が来た」と表現し

ています。具体的な「応援」の方法としてデモへの参加は十分考えられることですね。

③村長は危険を感じ警察に出動を要請した。

【訳例1】La vilaĝestro sentis danĝeron kaj petis policon venigi policanojn al la vilaĝo. (Lumo)

【訳例2】La urbestro sentis sin minacata kaj petis intervenon de la polico. (Drako)

【訳例3】La estro de la vilaĝo sentis danĝeron kaj petis policon por venigi policanojn. (brilo)

「村長」は vilaĝestro、「危険」は danĝero、「警察」には polico が使えます。

訳例1は危険を感じた村長が警察に警察官を来させるように頼んだと表現しています。対立する多数の人達が集まっているので騒ぎが高じて怪我人が出るかもしれないと案じたのでしょう。

訳例2は senti sin minacata (自身への脅威を感じる) を使っていますので、自分の身の安全のために警察の介入を依頼したのかもかもしれません。

訳例3も他の訳例と同様に veni を使っています。ただ、peti iun -i (～に～するように頼む) と言うのであれば por は不要です。この位置に考えられる前置詞は pri ですが常に省略されます。por を入れると意図した意味にはなりません。

④警官が300人も動員される程の事態になった。

【訳例1】La tumulto progresis ĝis tiel kriza situacio, ke 300 policanoj estas mobilizitaj. (Lumo)

【訳例2】Estis tia streĉa situacio, ke 300 policanoj estis mobilizitaj. (yosie)

【訳例3】La situacio fariĝis tia, ke 300 policanoj estis mobilizitaj. (Celejo)

「動員する」は mobilizi ion (動員する)、「事態」には situacio (情勢、局面) が考えられます。

訳例1は tumulto (騒乱) や kriza (危機的な) を使い、緊迫した重大局面であったと表現しています。ke 従属節内の時制ですが tiel ke の場合は絶対時制なので estis の方がいいでしょう。

訳例2は streĉa (緊張した) を使うことにより、緊張局面であり警官の動員が必要な程だったと表現しています。紙面の都合で紹介できませんが、他の課題でも言い換えや状況説明により分かり易く表現した例がありました。原文への補足や言い換えは大切だと思います。(成績は p.14 新しい課題は p.15)

連載：高齢者の…

4) 高齢者とエスペラント会話

佐野 寛 (大阪府)

Kion celas la parolkapablo de altaĝa Esperantisto?

——何を指すか高齢者の会話力？——

エスペラント会話学習を例会に取り入れたい要望はいつも出るのだが、なかなか成立しない。そもそも、講師のなり手が少ないから。一体全体、何を上げたらいいの？どう教えていいかわからない；使いやすそうな教材も見当たらない；そもそも会話教科書なんて存在するの？

成功している事例は卓越した魅力・高能力の講師が現れるか、受講者が差し迫った事情を持つ（ひとりで世界大会に行く、急に外国人を案内する約束をしてパニック、等）場合、に限られる。

だが、原理的にエスペラントは自然語よりも会話学習に有利な点がたくさんある。

<エスペラントの会話・有利性>

○一字一音：

英仏語では、読んだら理解できる文章でも聞いたら全然わからないことは、珍しくない。それは一字一音対応してないのでとっさの判断に迷うから。字を見て読解するのと聴き取りとの落差が大きい。書いたとおりに読めるのだったら、天国だ。——それはエスペラントではとっくに実現している。

○単語切れ目が聞いただけで判定できる→安心：

「語末から2番目の母音にアクセントを」という単純な規則がもたらした結果なのだ。一方、自然語の多くは、アクセント規則が野放しだ。意味の理解に余裕がない人が単語の切れ目を推測するのは、とても難題だ。

○エスペラント語尾により品詞識別可能→安心：

努力しないでも「品詞が分かる」のは、エスペラントマジックの一つだ。おかげで、文の構造は丸見え、といってもいいほど分かりやすい。ただし、これには例外が少しあって、「語尾なし副詞」が33語ほどあり、これは高齢者でも観念して暗記してください。

<エスペラント-メリットを会話に探す>

エスペラント語の聴覚親和性は他にもいろいろある。例えば母音が5つで、日本語と同じ。エスペラントは英仏語などと段違いに聴き取りやすい。英仏語では a, e, i, o, u が、「一字一音」から遙に離れ千変万化するからである。

ただしこの長所は、スペイン語もスワヒリ語もフィリピン語も5母音だから、エスペラント独占ではない。

<高齢者適性は？>

高齢者が会話の輪に入るにはいろいろと障害もある。聴覚が衰えてくるので、子音が判別しにくくなる（特に破裂音 (p, t, k) や破擦音 (c, ç) が混線）。母音は高齢化しても割に良く聞こえるので、日本語やエスペラントのように母音優勢型の言語は相対的に有利になる。

高齢になれば単語記憶力の減退はやむを得ない。辞書（細字で読み難い）依存が高まるが、幸い最近の辞書は音声入出力が可能になり、高齢者に追い風である。

<介護高齢者のエスペラント化策：あれこれ>

豊中エスペラント会では、要介護の進んだ高齢者を「永年会員」（10年分会費を払い、雑務から解放）として処遇するよう規約改正をした。例会に来なくてもご縁が切れませんように、と協議した結果、「読み聞かせボランティア」派遣案ができた。

<読み聞かせボランティアの初実施>

しばらくしてTさんが「永年会員第1号」となり、読み聞かせ実施が始まった。月1回、教材はLa Movado 記事。Tさんは視力が衰え、読む気力がなくなっているのに、聞かせてもらって嬉しいと。問題点もいろいろ見えてきた：読み聞かす方も聞かされる方も不慣れなため疲れる、健常者でいた時代にもっと聴く練習しておけばよかった、など。その後1年半、Tさんは死去された。

聴き取り力向上は高齢エスペラント会員の新・目標！
(終わり)

第110回日本エスペラント大会

2023年10月21日(土)22日(日)
川崎市総合自治会館ほか

第22回中四国エスペラント大会

2023年10月1日(日)
岡山国際交流センター

Pasporta Servo のお客 Petro さん

田平 正子 (京都府)

Pasporta Servo とはなんぞや？旅券(パスポート)発行のサービス機関？ 違う、違う！

エスペラント界にある、仲間受け入れボランティアのこと。エスペラントを使って旅行する人の助けになるし、受け入れる方も楽しい。過去 40 年間で、世界の五大陸から 400 人以上受け入れた。年上だろうと年下だろうと、男性だろうと女性だろうと、劣等感も優越感もなく対等にしゃべれるのが嬉しい。

今回の Petro さんは、本名は Patrick Hoyt さん。45 歳のアメリカ人で、テキサス州のヒューストンから 4 月 21 日に我が家にやって来た。体は太っているけど、ビーガン。野菜だけしか食べない。甘いものは食べるので、カロリーは足りているらしい。

我が家に居る間は、私が料理して食べさせるのではなく、豆腐と様々な野菜とオリーブ油で、いつもおいしく食べさせてくれた。メチャクチャ汚れている台所も、きれいに掃除してくれたり。

築後百数十年のこの借家は、プロレタリア長屋の真ん中で、天井や床下が共通で、お互い支え合っている。玄関からトイレまで踏板で、デコボコと音がするし、特に洗面所からトイレまでは庭からの雨漏りで、板が腐って危ない。

Petro さんは 2 メートルほどの板を遠くの店で沢山買ってきた。遠慮してバスにも乗らず、重たいのに肩に担いで。そして、新しくきれいな踏板を洗面所からトイレまで大工仕事して作ってくれたのだ！

私はエスペラント以外でもあちこち出かけているので、Petro さんのことは放ったらかしで、観光案内も何もしない。あべこべに、毎週金曜日夜、京都駅前の関西電力前での原発運動デモに 2 度もついて来てくれた。彼も原発反対なのだ。市民はマイクを使って関電へ呼びかける。Petro さんは日本語ができないので、英語で叫んだ。私は英語ができないので、通訳できない。ところが車椅子の仲間で、英語のできる人が日本語に通訳してくれたので、ありがたかった。

次の週の時は Petro さんはエスペラントで叫んだので、私が日本語に通訳した。エスペラントの宣伝になったかな？

La Movado 871



京都エスペラント会例会で。左端が Petro さん。

彼はもちろん、京都エスペラント会の例会にも参加した。4 月 22 日(土)には入門講座(森川クラス) 4 月 26 日(水)には相川クラス。そのほか、京都大学エスペラントクラブ(正式名は京都大学エスペラント語研究会)にも。クラブには入学したばかりの新入生もいて刺激になった。

京都がものすごく気に入って、他の町には行かなかった。また京都に来たいと言う。

自分の町は大きすぎて、買い物にも不便で、自転車は役に立たず、車でしか買い物に行けないと。

京都では金づち、のこぎり、ペンチ、ねじ回しなど、大工道具を沢山買えて喜んだ。帰りの飛行機に乗る時、問題にならなかったかしら？

我が家にもっと長く居てもらったら、私ももっと楽ができたのに！また京都に早く来てね。

9 月には 20 日(水)から 29 日(金)までスイスから Mirejo Grosjean、Martine Moine、Sonia Daubercies の 3 人連れがやってくる。例会に招きたい方は tahira-masako@nifty.com に連絡を。

Mirejo は 2007 年に我が家で 6 か月暮らしたこともある。彼女は我が家を基地にして日本中を飛びまわり、各地でエスペラントの会合や行事に参加した。

(編集部より)

Pasporta Servo の gastiganto (宿泊受け入れ者) のリストは、2017 年まで冊子とインターネットの両方で見ることができたが、現在はインターネットのみ。目的の国名か地名を入力することで、名前が表示される。具体的な連絡方法や条件を詳しく知るには、名前やメールアドレスを登録する必要がある。登録は無料。



54 La Flosponto en la Songô – Yume no Uki-Fasi – (3)

源氏物語第54帖 夢浮橋 ゆめのうきはし(3)

eljapanigis belmonto

‘Ŝi jam ŝanĝis sian figuron dece al Budho kontraŭ la vulgara mondo, sed eĉ bonzo fortondinta hararon kaj barbon estas ofte allogata al alia seksulo. Pli, kia serioza angoro okazos ĉe la virino! Ho, tre kompatinde! Ankaŭ mi estos punita de turmento pro la peko je tiu ago!’

Li afliktiĝis senfine, kaj decide anoncis:

“Mia malsupreniro el la templo estas ne oportuna hodiaŭ nek morgaŭ pro la necesaj servoj. Post la turniĝo al la alia monato mi sendos la mesaĝon al vi.”

Kavoru estis tre iritita pro tre multaj tagoj, sed urĝigi lin ‘pli frue’ ŝajnos tre malbele kontraŭ sia prestiĝo, do preparis ĝisrevidi kaj reiri al sia domo, afektante la agrablan komprenon.

3. *Kavoru* parolas sian intencon

Kavoru akompanis la frateton de Flosboato al la templo. Li estis la plej ĉarma knabo el ĉiuj aliaj fratoj.

“Ĉi tiu knabo havas la proksiman sangan rilaton kun Flosboato. Mi faros lin mesaĝisto al ŝi portempe. Bonvolu skribi leteron, ne klarigante mian nomon sed simple, ke iu serĉas ŝin.”

La *soŭduo* diris:

“Mi nepre ricevos pekon de tiaspeca letero. Mi jam rakontis pri ŝi detale. Do, kia peko okazos, se vi mem rekte iros al ŝi de nun kaj faros kion ajn vi volas.”

Al tiuj vortoj *Kavoru* ridis:

“Mi estas iom honta je viaj vortoj, timantaj fariĝi peranto inter geviroj. Honta estas ja mia vivmaniero en normala figuro, ne sankta. De

「かたちを変へ、世を背きにき、とおぼえたれど、髪(かみ)鬢(ひげ)を剃(そ)りたる法師だに、あやしき心は失せぬもあなり。まして女の御身はいかがあらむ。いとほしう、罪えぬべきわざにもあるべきかな」

と、あぢきなく心乱れぬ。

「まかり下(お)りむこと、今日明日は障(さは)りはべる。月たちてのほどに、御消息(せうそこ)を申させはべらん」

と申したまふ。いと心もとなけれど、なほなほとうちつけに焦(い)られむもさまあしければ、さらば、とて帰りたまふ。

3

かの御せうとの童(わらは)、御供に率(み)ておはしたりけり。ことはらからどもよりは、容貌(かたち)もきよげなるを、呼び出でたまひて、

「これなむ、その人の近きゆかりなるを、これをかつかつものせん。御文一行(くだり)賜へ。その人とはなくて、ただ、尋ねきこゆる人なむある、とばかりの心を知らせたまへ」

とのたまへば、

「なにがし、このしるべにて、必ず罪えはべりなん。事のありさまはくはしくとり申しつ。今は、御みづから立ち寄せたまひて、あるべからむことはものせさせたまはむに、何の咎(とが)かはべらむ」

と申したまへば、うち笑ひて、

「罪えぬべきしるべと思ひなしたまふらんこそ恥づかしけれ。ここには、俗(ぞく)のかたちにて今まで過ぐすなむいとあやしき。いはけなかりしよ

mia juneco mi deziris servi al Budho, sed tiam solece vivis la Princino de *Sandeŭ*, mia patrino, apogante al mi sola, kio ligis min kun ŝi, ne rifuĝante de ĉi tiu mondo, kaj mi zorgis ŝian ĉiutagan aferon. Dume mi promociiĝis al la alta rango, kaj fariĝis ne agipova laŭ mia plaĉo. Mi pasigis tagojn, kaŝe konservante la celon budhoservi.

“Ankaŭ ne eviteblaj aferoj multiĝis aŭ oficiale aŭ private, ekzemple mia edziĝo. Krom tio mi klopodis obei justan vojon laŭ Budho kaj tenis min serioze. Mi estas neniu alia ol asketo en la koro. Do, kial mi povos fari gravan pekon kontraŭ sentaŭga afero? Tio ne povas esti. Ne suspektu min. Mi estos ĝoja kaj kontenta, nur sciigante al ŝi la aspiron de ŝia amata patrino.”

Kavoru tiel rakontis pri sia dejuneca intenco budhoservi.

4. Frateto alportas leteron

‘Li pravas’ - la *soŭduo* kapjesis kaj juĝis lian kredon “respektinda decido.”

Jam vesperiĝis. Estis bone ripozi en la domo de *Vono* survoje al la Urbo, sed maloportune estis resti tie sen certa informo. Post la pripensado li decidis reiri al sia domo rekte. La *soŭduo* atente rigardis kaj laŭdis la knabon. *Kavoru* petis:

“Bonvolu transdoni mesaĝon per li, kaj aludi al ŝi.”

La *soŭduo* skribis la leteron kaj ĝin donis al la knabo, kaj diris ĝentile:

“Vizitu ĉi tiun montotemplon por ludi de tempo al tempo. Ankaŭ vi havas rilaton ne preterlaseblan.”

La knabo ne povis deĉifri tiujn vortojn, kaj akompane eliris, portante la leteron. Ili pasis preter *Sakamoto*, kaj dum la irado ili disiĝis iom post iom. *Kavoru* avertis:

“Ne estu atentokapta!”

(daŭrigota)

り、思ふ心ざし深くはべるを、三条宮の心細げにて、頼もしげなき身ひとつをよすがに思したるが避(さ)りがたき絆(ほだし)におぼえはべりて、かかづらひはべりつるほどに、おのづから位などいふことも高くなり、身のおきても心にかなひがたくなどして、思ひながら過ぎはべるには、またえ避らぬことも数のみ添ひつつは過ぐせど、公(おほやけ)私(わたくし)にのがれがたきことにつけてこそさまはべらめ、さらでは、仏の制(せい)したまふ方のことを、わかにも聞きおよばむことはいかであやまたじ、とつつしみて、心の中(うち)は聖(ひじり)に劣りはべらぬものを。まして、いとはかなきことにつけてしも、重き罪うべきことはなどてか思ひたまへむ。さらにあるまじきことにはべり。疑ひ思すまじ。ただ、いとほしき親の思ひなどを、聞きあきらめはべらんばかりなむ、うれしう心やすかるべき」

など、昔より深かりし方の心ばへを語りたまふ。

4

僧都も、げに、とうなづきて、「いとど尊きこと」など聞こえたまふほどに日も暮れぬれば、中宿(なかやどり)もいとよかりぬべけれど、うはの空にてもおのしたらんこそ、なほ便(び)なかるべけれ、と思ひわづらひて帰りたまふに、このせうとの童を、僧都、目とめてほめたまふ。

「これにつけて、まづほのめかしたまへ」と聞こえたまへば、文書きてとらせたまふ。

「時々は、山におはして遊びたまへよ」と、
「すずろなるやうには思すまじきゆゑもありけり」とうち語らひたまふ。この子は、心もえねど、文とりて御供(おほむとも)に出づ。坂本になれば、御前(ごぜん)の人々すこし立ちあかれて、
「忍びやかにを」
とのたまふ。

(続く)

Iom pri Niŝitecu- Oomuta linio

MUTOO Tacuko (Hukuoka)

Ĉu vi konas pri Niŝitecu-linio?

Niŝitecu estas mallongigo de “Niŝinippon-tecudou” kiu estas kompanio pri trajno, aŭtobuso, hotelo kaj aliaj diversaj aferoj. Kaj la fervoja linio nomata Niŝitecu-oomuta linio funkcias inter Oomuta kaj Hukuoka. La distanco inter la du stacidomoj estas ĉirkaŭ 75 kilometrojn longa. Kaj tiu linio havas du branĉajn liniojn nome Amagi-linion kaj Dazaihu-linion.

De la 15a jaraĝo ĝis nun mi multe utiligas tiun linion. Do, mi volas prezenti al vi iom pri ĝi.

Kiam mi estis 15-jaraĝa mi loĝis en la urbo Oomuta kaj ekfrekventis al supermezlernejo per trajno. En tiu tempo la urbo Oomuta estis ankoraŭ vigla, sed pro malpura aero kaj ankaŭ malbonodora kaj malpura rivero en la urbo oni sentis malagrablacon. Poste la medio iom post iom pliboniĝis.

Nun la urbo Oomuta fariĝis tre malvigla. Sed troviĝas en la urbo negranda sed unika kaj interesa zoologia ĝardeno. Bonvolu spekti ĝin perrete. Inter Oomuta kaj Hukuoka-Tenĵin nun haltas ekspresa trajno je 10 stacioj. La tria stacio de Oomuta estas Janagaŭa.

Janagaŭa estas fame konata urbo pro Kitahara Hakuŝu kaj suprenirado de rivereto perboate (en fakto ĝi ne estas rivereto sed kanalo, tamen oni diras japane “kaŭakudari”). Mi rekomendas al vi la supreniradon de rivereto, se vi ankoraŭ ne spertis ĝin.

Iri laŭ la kanalo sidante en negranda ligna boato kaj aŭdante la klarigon kaj kantadon de boatisto estas tre agrable. Laŭ la sezono diversajn florojn la loĝantoj bele florigas por turistoj, aŭ verdaj folioj de arboj apud la rivero nature faras agrablan ombron. Angilo estas famekonata bongustaĵo en Janagaŭa.

La sesa stacio estas Kurume. La urbo Kurume ne estas sufiĉe granda urbo. Antaŭe ankaŭ Esperanto-grupo troviĝis en tiu urbo, sed nun ne, bedaŭrinde.

La urbo Kurume ne estas turisma urbo laŭ mia vido, sed havas kelkajn vidindajn lokojn. Troviĝas ruino de kastelo de Feŭdo de Arima, kelkaj famaj sanktejoj nome Suitenguu, Bairin-ĵi kaj Koura-taiŝa, ktp. En tiu urbo fluas granda rivero Ĉikugo-gaŭa alinome Ĉikuŝi-ĵirou. Apud la rivero oni okazigas grandiozan fajraĵfeston en ĉiu aŭgusto. En la urbo Kurume naskiĝis Iŝibaŝi Ŝouĵirou, la kreinto de kompanio “Bridgestone”. Dank'al li, estis konstruita en la urbo Iŝibaŝi-kulturcentro kie troviĝas granda areo kun rozĝardeno, urba biblioteko, lageto kun cignoj kaj artmuzeo sufiĉe granda ktp. Oni povas eniri en tiu areo senpage(krom la artmuzeo), do oni povas ĝui la atmosferon en tiu kulturcentro tute libere.

La nomo de la sepa stacio Hucukaiĉi ne estas la nomo de la urbo.

Ankaŭ ekzistas Hucukaiĉi kiel la nomo de JR-linio.

Ambaŭ situas en la urbo Ĉikuŝino-ŝi. Kaj ĉirkaŭ la stacidomo de Hucukaiĉi de Niŝitecu-linio preskaŭ nenio vidinda troviĝas. Nur kiel la stacio kie oni devas ŝanĝi trajnon al Dazaihu ĝi estas grava.

Antaŭ longa tempo, Hucukaiĉi ĉirkaŭ JR-linio estis famekonata kiel la loko de varmfontejo. Sed lastatempe, sur la strato de varmfontejoj ne troviĝas multaj turistoj. Proksime de la strato troviĝas malalta monteto nomata Tenpai-zan. Oni diras ke sur tiun ĉi monteton Sugauara Miĉizane grimpis por apelacii sian justecon al la dio de sur la pinto de la monteto.

Laste, la nomo de stacidomo de JR-linio en Hukuoka estas Hakata, kaj la nomo de Niŝitecu-linio estas Hukuoka-tenĵin. Kaj tiuj du stacioj distancas iom fore. Bonvolu atenti.

vidis eksciis sentis

Kvin-etaĝa pagodo de Templo Koofukuĵi

TAKEMORI Hirotoŝi (Nara)

Nuntempe, la kvinetaĝa pagodo de la Templo Koofukuĵi* en la urbo Nara spertas grandskalan konservadon kaj restaŭran laboron por la unua fojo en 120 jaroj ekde la epoko Meiji. Bontenado kaj riparlaboro inkluzivas retegolon de tegmentoj, riparadon de lignaj partoj kaj repentrado de gipsaj muroj.

La provizora konstruado de la tegmento, kiu kovras la pagodon uzatan por tegmento-anstataŭigo kaj termezuroj, estis planita komenciĝi en januaro ĉi-jare, sed la oferto estis malsukcesa pro la altiĝanta kosto de materialoj ktp, kaj ĝi estis prokrastita.

Laŭ la Oficejo pri Konservado de Kulturaj Bienoj de la Gubernio Nara, kiu zorgas pri la riparo, la provizora konstruado

komenciĝis je julio ĉi-jare per oferto denove kaj subskribo de kontrakto kun la entreprenisto.

La provizora konstruaĵo estas proksimume 60 metrojn alta, kaj la kvinetaĝa pagodo ne estos vidita dum pluraj jaroj post kiam ĝi estos kompletigita.



Vi ankoraŭ nun povas vidi la kvinetaĝan pagodon, kvankam vi ne povas proksimiĝi al la pagodo pro konstruado.

* Bonvolu vidi la sekvan libron pri la templo Koofukuĵi: Nara Esperanto-Societo, "NARA, la eksĉefurbo en malproksimaj tagoj", Japana Esperanta Librokooperativo.



Leporo (うさぎ)

infana kanto, muz. k poez. de nekonataj, trad. SIMATANI Takesi



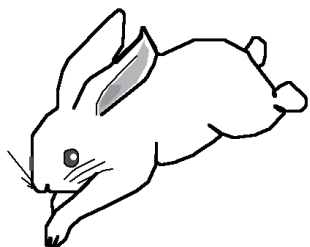
♩ = 72

Al ki - o, al ki - o sal - tas la le - po - ro nun?
La le - po - ro sal - tas al lu - no, ple - na he - la lun'

うさぎ

童謡・文部省唱歌

うさぎ、うさぎ、
なに 見て はねる。
十五夜 お月さま、
見て はねる。



Leporo

infana kanto, trad. SIMATANI Takesi

Al kio, al kio
saltas la leporo nun?
La leporo saltas al luno,
plena hela lun'

Songĝoj dum Dek Noktoj (9)

NATUME Sōseki, trad. OKI Keimei

La kvina nokto

Mi havis ĉi tian songĝon:

Neklare, sed supozeble tio okazis en tre malnova tempo. Ŝajnis proksime al mitologia epoko. Malfeliĉe, mi malvenkiĝis en iu batalo, kaj kaptiĝis viva. Oni perforte sidigis min antaŭ komandanton de malamikoj.

Tiamaj homoj ĉiuj estis altstaturaj, kaj havis longan barbon. Ili ligis ledan zonon ĉirkaŭ sia talio kaj de la zono pendigis glavon similan al bastono. Pafarko estis farita de dika sarmento de visterio sed ne estis prilaborita, mi vidis. Oni nek uzis lakon nek poluris ĝin. Estis tre primitiva pafarko.

La komandanto de la malamikoj starigis la pafarkon sur herboj, tenante ĝin ĉe ĝia centro kaj sidis sur la fundo de la vazo, kies fundo estis suprenigita, simila al tiu por sakeo. Kiam mi rigardis lian vizaĝon, mi trovis ke liaj brovoj estas dikaj kaj ligiĝas unu la alia super la nazo. Kompreneble tiam ne ekzistis razilo.

Mi estis kaptito, tial mi ne rajtis sidi sur io, sed nur sidis sur herboj, krucinte la krurojn. Kaj mi vestis grandajn pajlajn botojn. La botoj estis tiel altaj en tiu ĉi erao, kiel, kiam oni stariĝis, ĝiaj randoj atingis genuojn. Oni ne plektis la randojn kaj pendigis tiujn partojn kiel kvastojn. Kiam vestinto de la botoj paŝis, la kvastoj senorde moviĝis kiel ornamaĵoj laŭ ĉiu paŝo.

Li rigardis mian vizaĝon en lumo de fajro en ferkorbo sur subtenilo kaj demandis min, ĉu mi volas morti aŭ vivi. Oni unufoje faris tian demandon kiel tiama kutimo kontraŭ ĉiu ajn kaptito. Se la kaptito respondis ke li preferas vivi, tio signifis, ke li submetiĝas al siaj malamikoj. Se li diris, ke li preferas morti, tio signifis, ke li ne submetiĝas. Mi respondis per unu vorto "morti". La komandanto ĵetis la pafarkon starigitan sur la tero foren, kaj

夢十夜 (9)

夏目 漱石

第五夜

こんな夢を見た。

何でもよほど古い事で、神代(かみよ)に近い昔と思われるが、自分が軍(いくさ)をして運悪く敗北(まけ)たために、生擒(いけどり)になって、敵の大將の前に引き据(す)えられた。

その頃の人みんな背が高かった。そうして、みんな長い髯(は)を生(は)やしていた。革の帯を締(し)めて、それへ棒のような剣(つるぎ)を釣(か)りしていた。弓は藤蔓(ふじづる)の太いのをそのまま用いたように見えた。漆(うるし)も塗(ぬ)ってなければ磨(みが)きもかけてない。極(きわ)めて素樸(そぼく)なものであった。

敵の大將は、弓の真中を右の手で握(にぎ)って、その弓を草の上へ突(つ)いて、酒甕(さかがめ)を伏(ふ)せたようなものの上に腰(こし)をかけていた。その顔を見ると、鼻の上で、左右の眉(まゆ)が太く接(つ)ながっている。その頃髪剃(かみそり)と云(い)うものは無論(もちろん)なかった。

自分は虜(とりこ)だから、腰(こし)をかける訳(わけ)に行(い)かない。草の上(か)に胡坐(あぐら)をか(か)いていた。足(あし)には大きな藁沓(わらぐつ)を穿(は)いていた。この時代の藁沓(わらぐつ)は深いものであった。立つと膝頭(ひざがしら)まで来(き)た。その端(はし)の所(ところ)は藁(わら)を少し編(あ)み残(のこ)して、房(ふ)のように下(くだ)げて、歩(あ)くとばらばら動くようにして、飾(か)りとしていた。

大將は篝火(かがりび)で自分の顔(かほ)を見て、死ぬか生きるかと聞(き)いた。これはその頃の習慣(じゆんぐわい)で、捕虜(とりこ)にはだれでも一応(いちおう)こう聞(き)いたものである。生きると答(こた)えると降参(かみまが)した意味(いみ)で、死ぬと云(い)うと屈服(くつぷく)しないと云(い)う事(こと)になる。自分は一言(ひとこと)死ぬと答(こた)えた。大將は草(か)の上(うへ)に突(つ)いていた弓(ゆみ)を向(む)うへ抛(な)げて、腰(こし)に釣(か)りした棒(ぼう)のような剣(けん)をす(す)ると抜(ぬ)きか(か)けた。それへ風(かぜ)に靡(なび)いた篝火(かがりび)が横(よこ)から吹(ふ)きつ(つ)けた。自分は右(みぎ)の手(て)を楓(かえで)のように開(ひ)いて、掌(たなごころ)を大

ekmalingis la glavon similan al bastono. Tiam vento fleksis la flamon de la fajro kaj ŝprucigis ties fajrerojn sur ĝin. Mi malfermis mian dekstran manon tiel, kiel folio de acero, kaj levis ĝin ĝis la alteco de miaj okuloj, montrante la manplaton al la komandanto. La signifo de la gesto estis “atendu”. Li eningis la dikan glavon, kiu faris sonon pro frotado kun glavingo.

En tiama erao ankaŭ ekzistis amo inter viro kaj virino. Mi diris, ke mi volas vidi mian amatan virinon refoje por unu fojo. Li diris ke li atendos ŝin ĝis kokerikado de koko post mateniĝo. Mi devis venigi ŝin ĉi tien ĝis kokerikado de koko. Tio signifis ke, se koko kokerikas kaj ne venos la virino, mi estos mortigita sen renkonti ŝin.

Li sidante rigardis la fajron de la ferkorbo. Kruĉiginte pajlajn botojn, mi sidis sur herboj. Iom post iom proksimiĝis profunda nokto.

De tempo al tempo, disfalantaj kunmetitaj brullignoj en la ferkorbo faris sonojn pro bruliĝo. Flameroj de la fajro lavange moviĝis kvazaŭ konfuzite en la direkto al la komandanto je ĉiu disfalo de kunmetitaj brullignoj. Liaj okuloj brilis sub la nigraj brovoj. Tiam iu venis kaj enĵetis multajn novajn branĉojn en la fajron. Post kelke da tempo brulantaj branĉoj krakis. Tiaj sonoj estis tiel bravaj, kiel ili kvazaŭ rebatus mallumon. (daŭrigota)

将の方へ向けて、眼の上へ差し上げた。待てと云う相図である。大将は太い剣をかちやりと鞘(さや)に収めた。

その頃でも恋はあった。自分は死ぬ前に一目思う女に逢(あ)いたいと云った。大将は夜が開けて鶏(とり)が鳴くまでなら待つと云った。鶏が鳴くまでに女をここへ呼ばなければならない。鶏が鳴いても女が来なければ、自分は逢わずに殺されてしまう。

大将は腰をかけたまま、篝火を眺めている。自分は大きな藁沓(わらぐつ)を組み合わせたまま、草の上で女を待っている。夜はだんだん更(ふ)ける。

時々篝火が崩(くず)れる音がする。崩れるたびに狼狽(うろた)えたように焰(ほのお)が大将になだれかかる。真黒な眉(まゆ)の下で、大将の眼がぴかぴかと光っている。すると誰やら来て、新しい枝をたくさん火の中へ抛(な)げ込(こ)んで行く。しばらくすると、火がぱちぱちと鳴る。暗闇(くらやみ)を弾(はじ)き返(かえ)すような勇ましい音であった。

(続く)

kultura heredaĵo

tradukita al Esperanto

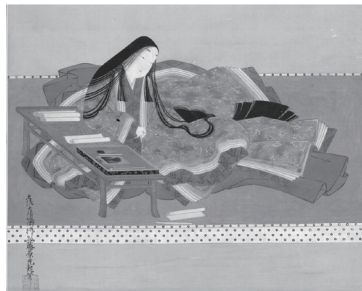
小倉百人一首 Cent Versis Utaon



tradukis SIMATANI Takesi

めぐりあひて
見しやそれとも
わかぬまに
雲がくれにし
夜半の月かな

(57 紫式部 973-1031)



Ĉu ĝin mi vidis?
Aŭ ĝi nur iluzia?
Tuj poste kaŝis
la lunon sopiratan
jam nubo apatia.

(Murasaki-Ŝikibu)



Japana Malnova Rakonto (22)

Uŝiŭaka

rerakontis SIMATANI Takesi

Antaŭ multaj jaroj novica knabo Uŝiŭaka vivis en templo ĉe piedo de la monto Kurama. Iun tagon la knabo trejnis sin en skermado.

Tiam de montaro aperis kaj alparolis Tenguo*. “Knabo, ĉu vi volas fortiĝi?” Uŝiŭaka tuj respondis sentime. “Jes, mi volas esti forta.” “Bone, mi trejnos vin en skermado.”

Post plurjara ekzercado, kiam Uŝiŭaka fariĝis pli forta ol si mem, Tenguo demandis. “Kion vi faros per glavo?” Post iom da hezito Uŝiŭaka diris. “Mi ne devas batali per glavo, sed servi al Budho” “Ĉu vi ne aŭdis de la patrino? Vian patron mortigis Taira no Kijomori**. Ĉu vi ne venĝos vian patron?” Uŝiŭaka respondis. “Mi forlasos la templon kaj venĝos la patron.”

Por varbi kunbatalantojn Uŝiŭaka iris al Kioto. Tiam en ĉiu nokto ĉe la Ponto Goĵoo aperis kolosa Benkei. Li rabis glavojn de samurajoj trapasantaj la ponton. Kiam 999 glavojn li forrabis kaj mankis nur unu al mil, alvenis Uŝiŭaka.

Benkei svingis longan hakilon. Uŝiŭaka fuĝis de la klingo kaj saltis sur balustradon de la ponto. Kiam Benkei impete alfrapis, ĉiam Uŝiŭaka desaltis facile dekstren kaj maldekstren. Fine ĵetita ventumilo trafis la frunton kaj Benkei cedis.

Minamoto no Joritomo, frato de Uŝiŭaka estis ekzilita al Izu. Kiam li lanĉis ribelon, Uŝiŭaka kun Benkei k.a. alkuris al Kamakura. Uŝiŭaka batalis en la nomo Minamoto no Joŝicune. Lia armeo persekutis tiun de Taira, kiu rifuĝis de Kioto. Fine sur maro ĉe Dan no Ura li pereigis la Klanon Taira.

*Tenguo: Estajo en japana folkloro. Ĝi havas longan nazon kaj estas majstro de skermado.

**Civila Milito de Heiĝi: En la jaro 1159 alianco de Huĝiŭara no Nobujori kaj Minamoto no Joŝitomo batalis kontraŭ tiu de Huĝiŭara no Miĉinori kaj Taira no Kijomori. La Klano Taira venkis tiun de Minamoto kaj mortigitaj estis Nobujori kaj Joŝitomo, kies etaj filoj estis indulgitaj, kondiĉe ke ili fariĝu bonzoj.

2023.09

日本昔話 (22)

牛若丸

島谷剛 再話



tenejo



むかしむかし、鞍馬山(くらまやま)のふもとのお寺に牛若丸(うしわかまる)という小僧が住んでいました。ある日、小僧は山の中で剣術の稽古をしていました。

すると、山の中から天狗が現れて言いました。「小僧、強くなりたいか？」牛若丸は「はい、強くなりたいです」と、恐れずに答えました。「なら、わしが剣術を教えてやろう」

何年も稽古して、牛若丸が天狗自身よりも強くなったとき、天狗は聞きました。「おまえは剣で何をしたい？」少し迷ってから、牛若丸は言いました。「私は仏に仕える身です。剣で戦うことはありません」「母から聞いていないのか。おまえの父は平清盛(たいらのきよもり)に殺されたのだ。父の仇(かたき)を討ちたくはないか」牛若丸は答えました。「寺を棄て、父の仇を討ちます」

仲間を集めようと、牛若丸は京都に向かいました。そのころ、毎夜五条大橋に弁慶という大男が現れ、橋を渡る武者の刀を奪っていました。999本の刀を手に入れ、あと一本で千本という夜に牛若丸がやって来ました。

弁慶がなぎなたを振り回して打ちかかると、牛若丸はヒラリとかわして橋の欄干に跳び乗りました。何度打ち込んでも、右に左にヒラリヒラリとよけられます。牛若丸が投げつけた扇が額に命中して、弁慶は降参しました。

牛若丸の兄の源頼朝(みなもとのよりと)もが伊豆で流人になっていました。頼朝が兵を挙げると、牛若丸は弁慶らを引き連れて鎌倉に駆けつけました。源義経(みなもとのよしつね)と名乗って戦い、京都から西へ逃れた平家を追い詰めて、ついに檀ノ浦の合戦で討ち滅ぼしました。

2024年の関西大会は京都で（再掲）

2024年の第72回関西エスペラント大会は京都で開催することが決まりました。

開催日：2024年6月29日・30日（土日）

会場：京都市国際交流会館（京都府京都市左京区粟田口鳥居町2-1）

大会テーマ：共生こそ平和への道

公開コンサート：あおい苑の皆さんのミュージックベル演奏、野田淳子さんの歌唱。

公開講演：弁護士 尾藤廣喜さん「世界と日本の貧困問題」。
[←京都エスペラント会 森川 和徳]

7月の土曜エスペラント会

7月もオンラインで8日に開催された。出席10人（内、海外から1人）。次の発表があった。「中山道を完歩するも途中でパソコンが使用不能に」、「スパイ、リヒャルト・ゾルゲ」、「ニエボカラノフ修道院とその創設者コルベ神父」。発表の数は少ないものの、その分、質疑応答にたっぷりの時間をさいた。その他、今年の世界エスペラント大会など、様々な話題について自由に話し合った。

土曜エスペラント会は、原則毎月第2土曜日に開催。
連絡先：山川修一 <shu@gol.com> [←山川 修一]

宮崎エスペラント会近況

7月22日（土）14時～16時、宮崎市民活動センターで例会。エスペラント説明会に1人参加。“La Movado” n-ro 870、“Monato”誌、“Kontakto”誌の配布、“Vojo Senlima”の回覧。次回例会の8月19日（土）も14時から宮崎市民活動センターで。
[←近藤 方彰]

展示会・講習会などの予定を

La Movado 編集部へお送りください。年末のザメンホフ祭の予定もお決まりでしたらお知らせください。

宛先は <lamovado@gmail.com> です。

郵送される場合は、La Movado 編集部（561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204 関西エスペラント連盟気付）にお送りください。

池田エスペラント会に Ron Channey さん

7月8日（土）の例会にアメリカ合衆国フィラデルフィア出身の Ron Channey さんが参加した。昨年から2回目。Ron さんは、猪名川をはさんで池田市とは反対側の兵庫県川西市内で小学校・中学校の英語教員として働いている。好きな日本語をきいてみると、「郵便局」、「八百屋」、「地下鉄」で、発音がおもしろいからとのことだった。[←島谷 剛]



Ron Channey さんと池田中央公民館で

『雪国』エスペラント訳本と手紙展示

川端康成が少年期に過ごした茨木市には市立の川端康成文学館がある。生誕月記念企画展「川端とつながる」（6月10日～7月17日）で、KLEG が寄贈した新旧版の『雪国』エスペラント訳本と、翻訳を承諾した川端本人からの手紙が展示されていた。展示の傍らには、川端の中学生時代の日記に、「私はエスペラント語を主言語にしたいのだ」と関心を示していた、との説明書きが添えられていた。

[←宮本 義人]

La 4a Vintra Lernejo

2024年1月27日（土）～28日（日）

エスペラント会館（京都）

狂言、エスペラントで思い出のレシピ、文法で表現力向上、会話教室など検討中。放課後の遠足も。

Kurantaj Vortoj

地政学 geopolitiko

回廊地帯 koridoro, eliraĵo

山型字上符（サーカムフレックス ^） cirkumflekso

U型字上符（ブリーブ ~） ronda hoketo, brevo

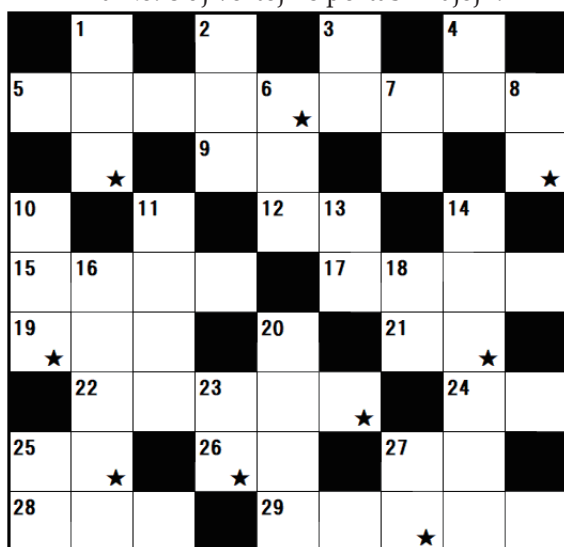
Vortkruca enigmo

TAKEMORI Hirotoŝi

Vicigu adekvatan 9 literojn trovitajn en la kvardratetoj kun stelo. Tiam vi akiros la nomon de unujara planto, kies frukto ne estas dolĉa, estas uzata en la kuirarto kiel legomo. La nomo komenciĝas per la nomo de dolĉa frukto.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de septembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: ĉiuj vortoj ne portas finaĵojn.



Horizontale: 5. La milito devas esti ĉesigita per ~aj intertraktadoj. 9. Ho ve, la malvarmig~o ne funkcias! 12. Pluv~oj kaŭzis multajn damaĝojn. 15. Delikata, agrabla kaj subtilaodoro. 17. Estis malfacile por mi ~i saĝtelefonon. 19. La urbo Kioto estis la ĉefurbo de Japanio antaŭ ĉirkaŭ ~ducent jaroj. 21. ~ Usono venis li, kaj parolas la anglan. 22. Kio estas tiu birdo, kiu imitas la vortojn de sia posedanto? 24. Mallongigo de "tio estas". 25. la vazo falis ~ la tablo. 26. Mi preferas oranĝojn ~ pomojn. 27. Mi aŭdas ~n paroli en la apuda ĉambro. 28. Japana versoformo, konsistanta en la ripetado de kvin- kaj sep-silabaj versoj. 29. Ni komencis rifuĝi ĉar ni aŭdis tajfunan ~on en la radio.

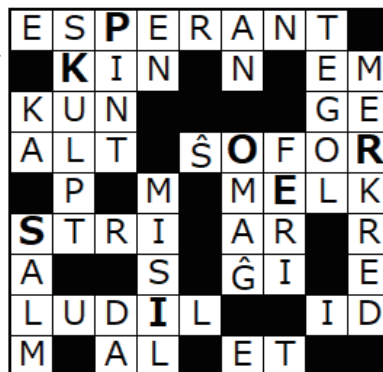
Vertikale: 1. Meduzoj aperas en maro

~e de somero. 2. Necesas ~ da mono. 3. Kol~o, man~o, kalkan~o. 4. Paf~e mortis eksĉefministro. 6. Ne miksiĝas ~o kaj akvo. 7. Patro de patro. 8. Patr~o, vir~o, fil~o. 10. Kinkakuĵi estas ~a templo. 11. La viro kriegas: " ~ !". 13. Ambaŭ miaj ~patroj mortis. 14. La Monda Heredaĵo de Unesko konsistas el la monda ~-heredaĵo kaj el la monda natur-heredaĵo. 16. Homoj, kiuj ignoras la historion, ŝajne ~os ĝin. 18. Oni diras, ~baldaŭ okazos tertremo. 20. Mi ~is la sablon de sur la perono. 23. Tio kostas cent dolarojn ~ unu nokto, krom imposto. 25. Atombomboj estis ĵetitaj sur Japanion ~foje. 27. Ŝi kapablas endormiĝi ~ ajn.

La solvo al la julia enigmo: PERSIKO

La ĝustan solvon donis 13 legantoj:

武藤 たつこ、
水渡 篤子、CA、
Sayuri、
濱田 國貞、
平井 倭佐子、
Grebo、
島津 泰子、
松川 まきこ、
TADA、
本田 照美、
にし のりこ、
Kacu



Korekto de aŭgusta enigmo:

horizontale 28 Ha ~ ! => Ho, ~ !

楽しい作文教室 (145) 成績

12人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね: Lumo, ikona, CA, yosie(① parlamento ③ peti iun), Eiko(③ peti iun), Ivajo(② Anakŭ).

良いね: Drako(① manifestanta), Celejo(① manifestante ③ peti iun), brilo(① 主動詞は 1 つ ③ por), Haveno(① intervenis ② 対格), Jasuko(③ 時制 ④ 文の区切り), はるちゃん(① manifestacante ② naibara).

キラリ賞: Lumo(④), yosie(②③④), CA(④), はるちゃん(④)

Mikspoto (当欄は敬称略)

★5月20日付『朝日新聞』の「著者に会いたい」欄「NHK放送文化研究所主任研究員 塩田雄大さん」の紹介で、「高校では中国語にエスペラント、スペイン語、フランス語、ドイツ語など次々学び、その後韓国に1年間留学もした」と。[←田平 正子]

★6月26日付『朝日新聞』に「被爆の記憶私がつなぐ」と題して昨年88歳で亡くなった米澤鐵治さんの被爆証言について、仲間が「英語・エスペラント語・日本語の合冊版とく中略>冊子を完成させ、130の在日大使館に発送した」と。[←田平 正子]

★7月15日付『岩手日日新聞』に花巻商工会議所女性会が、創立40周年記念事業として花巻市のJR花巻駅東口に花のプランターを設置したこと。「今年没後90年を迎える宮沢賢治が熱心に使った国際語『エスペラント』による同駅のイメージ名『ĉielarko (虹)』をテーマにした寄せ植えで市の玄関口を飾った」と。[←後藤 斉]

★7月16日付『河北新報』に「庄内出羽人形芝居唯一の担い手・津盛さん、2代目『柳太郎』襲名へ」と題する記事。「アフリカ東部タンザニアで来年夏に開かれる世界エスペラント大会での公演を依頼された」と。[←後藤 斉]

★既刊で本誌でも紹介済みの書籍『ナポレオンじいちゃんとはよくと永遠のパラクーダ』（パスカル・リュ

楽しい作文教室11月号課題 (9月20日締切)

- ①彼は村の中の狭い道を小学校へ急ぐ。
- ②家から新しい小学校へは歩いて約半時間だ。
- ③自転車で行けるような道はまだない。
- ④坂を下りて池の横を通り田んぼの間を進む。(ヒント) 自転車 biciklo、田んぼ rizkampo、bezoni、preter を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

テル著、田中裕子訳)が、「dアニメストア」より4月に発売された。紹介文に「スーパー高齢者の祖父は……失礼なチンピラを殴り倒し、エスペラント語で会話し……」とある。[←後藤 斉]

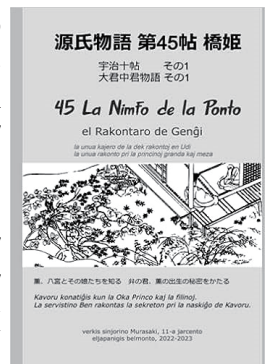
★広高正昭さんおすすめテキスト検索サイト:

・Tekstaro de Esperanto <<https://tekstaro.com/>> エスペラントの比較的良質なテキスト(ZamenhofからMonatoまで、約100種類800万語)を集めたサイト。年代などを指定できる。

・Kukolo <<http://tekstoj.nl/kukolo/kukolo.htm>> インターネット上のエスペラント文を対象に検索するサイト。機械的に処理しているため他の言語が混ざることがある。エスペラント文の質は玉石混濁。[←メーリングリスト FLES より]

出版情報 源氏物語「橋姫」Amazonで

本誌でも連載した源氏物語第45帖『橋姫』(宇治十帖の一)のbelmontoさんによる日本語・エスペラント対訳本がAmazonで電子本(<http://esperas.info/index.php?kindle17>)99円と、ペーパーバック(<https://www.amazon.jp/dp/B0CCCVQB37>)900円で販売開始された。



KLEGG 事務局だより

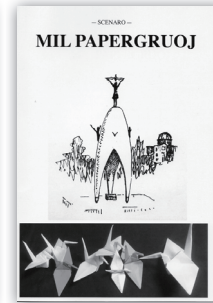
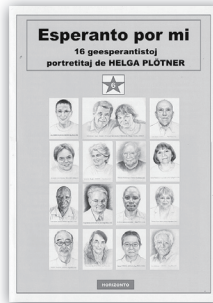
★多くのエスペラント雑誌/機関誌が8月は発行されない中、La Movadoは、今月もお手元に届けられます。

★KLEGGでは、青年個人会員の会費は、一般会員の半額の2200円と、La Movado購読料より安くなります。青年会員とは4月1日時点で35歳未満の会員をいいます。各ロンドの会員は所属する Rond にお問い合わせください。

KLEGG 後援会へのご寄付 (2023年7月、敬称略)

匿名	5,000 円
上月 富佐子	600 円
伊藤 純子	600 円
岡本 達哉	500 円
大西 真一	447 円
仁木 茂	314 円

ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

Raportoj el Japanio 26 1800円
堀泰雄の「報告」最新刊。ウクライナ情勢をめぐる「世界の声」、フクシマの報告、文芸コンクール入賞作品など多彩な内容。A5判、288p。

Esperanto por mi 6 500円
画家ヘルガが描いた佐々木照央、富田成美、Julian Modestら16人のエスペランチストの肖像とエッセー。A4判、16p。

※2～5も在庫あり(各500円)。

Bluaj neĝoj 1900円
抑圧的な体制下、一家はシベリアの収容所に送られ、少年がただ一人生き残る。著者 Piotr Bednarski の体験を踏まえた作品。A5判、125p。

Studoj pri la Esperanta literaturo 1200円
Benczikによる文学論の新版(初版 La Kritikanto、1980年)。バギー、オールド、サドラーらを論じ、エスペラント文学を展望。日本エスペラント図書刊行会発行。A5判、172p。

★ 平和への祈りをヒロシマから ★

Vojaĝo en Hiroshima [新版] 800円
原爆資料館などを巡るガイドブック。

Atestas atombombito koredevena PAK

Namĵu 600円
忍岡妙子「在日被爆者朴南珠の証言」。弟妹と被爆、証言活動をつづける朴南珠の声を次世代へ。

Notoj pri la delto 400円
広島で被爆した岡田春の手記「デルタの記」。

Mil papergruoj 600円
シナリオ「千羽鶴」(田中貞美訳)。

★ 世界へ伝える一堀泰雄の「報告」 ★

Raportoj el Japanio 23 1300円

Raportoj el Japanio 24 1800円

Raportoj el Japanio 25 1500円

3・11以降毎年の状況を丹念にまとめた「報告」。

※**Raportoj 1～22**も在庫あり(1200～2200円)。

★ 日本エスペラント図書刊行会の本 ★

エスペラント文法の散歩道 [改訂新版] 1000円
小西岳の文法論。「kajとsed」「laの用法」他。

エロシェンコのシベリアものがたり 800円
高杉一郎が翻訳したエロシェンコのシベリア体験にもとづく4作品。うち「チェスの三手詰め問題」は訳者没後に原稿が発見され、初出となる。

Noveloj de Akutagawa Ryūnosuke 1000円
「蜘蛛の糸」「蜜柑」「早春」など対訳芥川集。

◇ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★来年6月29日・30日(土日)に関西エスペラント大会が京都市国際交流会館で開催されるのにちなみ、京都人「牛若丸」こと源義経を「日本昔話」に。10月号には童謡「牛若丸」を予定。(宮本義人)

編集部宛連絡・投稿は<lamovado@gmail.com>へ

発行所：ラ・モバード社 編集：相川節子 発行人：染川隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共
本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話(0957)43-4352
中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町2-4-18 小阪清行方 電話(0877)22-4771